

# 都市医師会 だより

市民対話集会2018

こんにちは！札幌市医師会です！  
国民が安心できる医療制度をつくるために

札幌市医師会 政策部長 荒木 啓伸

平成30年9月22日（土）に、札幌市医師会主催の市民対話集会を開催いたしました。市民対話集会は、一般市民の方を対象に、医療制度および医療政策に理解、関心を深めていただく目的で本会政策部の担当で毎年度開催しており、今回で15回目を迎えました。

これまでの14回は札幌市医師会館において行ってきましたが、今回は、普段医療の話題にあまり接することのない方、また、幅広い年齢層の方に医療制度に関心を持っていただきたい、という目的で、初めて館外、札幌駅前通地下歩行空間（チ・カ・ホ）において開催しました。当日は、当会関係者は揃いのサックスカラーのジャンパーを着用して参加しました。また、多くの皆さんに医療をより身近に感じていただきたいとの趣旨から、バラエティー・情報番組を中心に活躍しているオクラホマ（藤尾仁志・河野真也）のお二人をゲストに迎え、トークやステージを交えて、カジュアルな雰囲気の中で開催いたしました。

司会は市民対話集会ではすっかりおなじみとなった、ラジオや司会で活躍されているフリーアナウンサーの野宮範子氏にお願いし、軽快な語り口でわかりやすく進行をしていただきました。

第一部では、パネルディスカッションとして、オクラホマのお二人と私のトーク形式により、日本の国民皆保険制度の特徴を説明しました。まず、「病院の待ち時間が長い」というネガティブなイメージを糸口に、我が国におけるフリーアクセスの特徴と諸外国との比較を説明し、その日のうちに専門医療機関にも受診が可能な日本の優れた医療制度について説明しました。また、「病院でいくらかかるか不安」との声に対して、日本の医療費が比較的安価であるが、医療費の増大により国が窓口負担の増加等を検討されていることを説明し、札幌市医師会が健康寿命の延伸等により、医療費が必要以上に増大しないように取り組んでいることを説明しました。また、札幌市医師会は長年にわたり患者窓口負担の軽減を提言しており、患者さんが安心して医療機関を受診できるよう活動していることを紹介しました。さらに、受療行動の適正化を通じて医療機関での待ち時間を

短縮するためや健康寿命の延伸のためにも、なんでも相談できる「かかりつけ医」を持つことが重要であると説明し、会場からは賛同の声が聞かれました。オクラホマのお二人の軽妙な突っ込みに、会場は笑いに包まれながらも、熱心にトークに耳を傾ける参加者の姿が見られ、和やかな雰囲気の中で医療制度について理解を深めていただけたものと思います。

引き続き、パネルを用いて札幌市医師会の活動について、政策部担当の多米理事より説明を行いました。その後、パネルディスカッションの内容をもとに、国民皆保険制度を維持するための札幌市医師会の政策提言について政策部担当の小原理事から説明を行いました。ここでもオクラホマさんとの掛け合いを交えて解説を行い、笑いの中にも説明に傾く参加者の姿が印象的でした。

第二部では医療クイズ大会として、第一部で取り上げた国民皆保険制度、かかりつけ医に関する問題を中心に出題。選択肢を提示する前から手を上げる参加者も多く、一般の市民の方に医療制度に広く関心を持っていただけたと感じております。引き続き、オクラホマのお二人によるステージを開催。第一部の内容や、オクラホマご自身が医療機関にかかった経験を含めた軽妙な漫才が繰り広げられ、会場は大いに盛り上がりました。

今回は、初めて札幌市医師会館を離れて実施しました。参加者は午前中からアンケートにご協力をいただいた方が310名、実際に第一部、第二部の市民対話集会に参加いただいた方は約200名と、合わせて約400名に上りたくさんの市民の方にご参加をいただきました。今回は、初めて市民対話集会に参加した、という市民の方も大変多く、一般の市民の方に気軽に医療制度に接していただく大変有意義な機会になったと感じております。

最後に私の方から国民皆保険制度を堅持することの重要性を強調し、札幌市医師会は今後とも市民が安心して医療を受けられるよう、医療制度の維持発展のための活動を継続すること、そして、会場のお集まりの市民の皆さんに次回の市民対話集会での再会を約束して締めくくりました。この場をお借りしまして、ご参加いただきました皆様にお礼を申し上げます。

